

会報

No. 64

平成16(2004)年8月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075)762-4655

状況は厳しいが

京都府立図書館長 津守俊一

近時、国を挙げて、子どもの読書

活動を推進しようという動きが強まっている。理由は、日本の国の若者を見た時に、どうも論理性に欠ける面があったり、常識的な用語の基本すら危ぶまれる者が増えてきたからだということが、すでにその予兆は学校教育の中で、「新人類」の出現を言われた頃に現れていたのだと、今になってはつきり指摘できる。ともあれ、言われるような現象が進行するとなると事は重大であり、解決は困難を極めることになる。読書活動を推進することで全面解決とはいかないが、一助になるのであれば、図書館関係者に異存はないとこ



ろだ。

ところで、私の子どもの頃には、台風が過ぎると、赤とんぼの大群が空を飛び過ぎていった。地面にできた水たまりにたくさんのがいが卵を産むために飛来してきた。大都会にも自然は身近かに豊かにあったから、少年時代は、誰も間接経験の活字の世界になど見向きもせず、実体験で得られる捕獲や、勝利の成功体験に夢中になっていた。しかし、不思議と、小学校五年生頃になると、皆段々と遊びの世界に距離を置くようになり、活字という文化の匂いがある世界に近づいていったように思う。私の場合は、小五の時にハードカバーの「ドン・キホーテ」を買ってもらったのが、転機だったように思う。家の中にあるハードカバーの書物は、そのドン・キホーテしかなかったのだから、これは大変なことであった。だが読んでもちっとも面白くないドン・キホーテより講談の寛永三馬術や真田十勇士に熱中し、やがて中学ではシャーロックホーム

ズから文芸小説へとレパートリーが広がった。

思えば人間の自然の成長と軌を一にしてゆつくりとステップを踏むことができた時代であった。だからほとんどの者が、自分のペースで一段階一段階を卒業することができた。

さて、現在の子どもの達は、生まれた時からテレビの画面でバーチャルな世界を嫌でも応でも注入され続け、物心つく頃には塾に通うとなると、人間の自然の発達段階に即した文化の伝承というのは、社会全体でほとんど意識的に仕組んでいかない限り、断絶されていってしまうという心配がある。

家庭が、しっかりそういう意識をもって子どもの成長を見守ることがベストなのだが、全ての家庭にそれを期待することは無理なことだろうから、「子どもの読書活動推進」とか、「自然体験活動」の推進を、社会全体がしっかりスクラムを組んで取り組む必要がある。

事は単なる読書活動の振興という表面的なことだけではなく、日本の国の文化の維持発展にまで及ぶことだけに、性根をすえてかからねばなるまい。

平成十六年度

京都市図書館等連絡協議会定期総会開催

平成十六年度京図連協定期総会が、平成十六年四月二十二日(木)午後一時三十分から、京都市立図書館において開催されました。

まず、開会行事として、山本徳善会長のあいさつ、内海啓也国立国会図書館関西館事業部長、高熊秀臣京都府教育庁指導部社会教育課長からの来賓あいさつ、津守俊一京都府立図書館長の歓迎あいさつがありました。

その後、平成十六・十七年度の理事紹介があり、議事に入りました。総会の後には、図書館業務に永年勤続し、その功績を認められた十三名の方の表彰、並びに、「公共図書館をめぐる最近の動向」をテーマに、大阪府立中之島図書館一般資料課長の前田章夫氏からご講演をいただきました。(詳細は、次ページ)

◇総会議事

総会は、小山豊嗣久御山町立図書館長を議長に選出し、加盟館六十二館中、出席三十四館・委任状二十一館・欠席七館により、総会が成立し

ていることを確認した後、議事が開始されました。

まず、事務局から、平成十五年度会務及び決算報告がされました。監事の牧野久夫井手町図書館長から監査報告をいただき、会務報告・決算報告ともに承認されました。

次に、会則第八条の改正について、提案がありました。これは、平成十六年五月一日の府教育局の再編により、北桑田、与謝選出の理事が減となるが、各地域の均衡を考慮し、会則第八条を改正(南丹局、丹後局ブロックともに理事二名とする。)するもので、承認されました。

また、早野潔京都市南図書館長、西村千秋長岡京市立図書館長を新たな監事とすること、梶村健二京都市中央図書館長、吉池一郎府立総合資料館長(五月一日付け異動により、現在は辻逸司館長)、津守俊一府立図書館長を顧問とすることが、それぞれ承認されました。

その後、平成十六年度事業計画(案)及び予算(案)が提案され、それぞれ承認されました。

最後に、協議と採決が行われ、全議案の承認を確認し、総会が閉会しました。

◇会務報告・決算報告

会務報告では、「子どもの読書活動推進計画」の策定、ブックスタートの取組、学校との連携等の下で、府内の図書館の動向や相互協力の高まりが報告されました。

次に、各専門委員会の活動として、研修研究委員会からは三回の実務研修会、相互協力委員会からは、拡大相互協力委員会の開催での雑誌目録等の検討、実務担当者会での府内図書館の実践発表・協議、さらに、広報委員会からは三回の会報発行がそれぞれ報告されました。

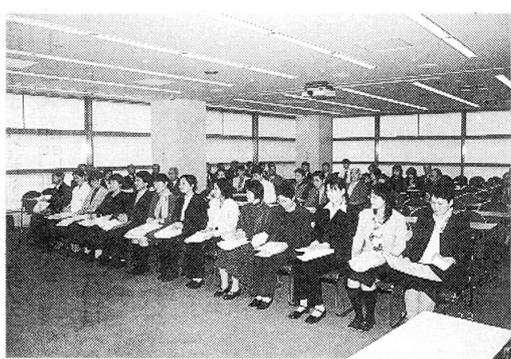
決算報告では、各専門委員会委員への旅費の支出等が報告されました。

◇事業計画・予算(案)

事業計画では、特に、今後三カ年計画で、府内三会場で「子どもゆめ基金助成金」事業を計画し、今年度は北部会場で実施すること、相互貸借におけるFAX版WANTEDの廃止が提案されました。予算では、京丹後市の発足に伴う分担金の減少が提案されました。

◇職員表彰

- 表彰者一覧(敬称略)
 - 山崎 健藏(京都市北図書館)
 - 高橋 直子(京都市中央図書館)
 - 藤澤 由美(京都市中央図書館)
 - 利根川ゆみ子(京都市中央図書館)
 - 大槻 成人(京都市下京図書館)
 - 国本 清美(京都市伏見中央図書館)
 - 海老原 緑(京都市吉祥院図書館)
 - 大下 美紀(京都市洛西図書館)
 - 菊岡真砂子(城陽市立図書館)
 - 松井 順香(精華町立図書館)
 - 竹内 知子(精華町立図書館)
 - 森井 里美(加茂町立図書館)
 - 西澤実千代(福知山市立図書館)
- 受彰者の皆さま、おめでとうございました。



「公共図書館を巡る最近の動向」(抜粋)

講師 大阪府立中之島図書館 一般資料課長 前田章夫氏

時間的な制約もあり、最近の動きをアウトラインだけご紹介します。

最近では、図書館の発言等へのリアクションが非常に全国的なレベルで広がります。例えば、千葉県船橋市図書館の蔵書廃棄事件、横浜市立図書館が民間会社に完全に複写業務を委託したという事案、『石に泳ぐ魚』の閲覧禁止問題、さらに、図書館貸出が、著作者等へ多大な損害を与えているから損害補償しろという訴えもあります。やはり、図書館の存在が社会的に認められつつある中で、の事象であり、真剣に考えていく必要があります。

現在の図書館は、もうすぐ二千八百になろうとしており、設置率も市立で九十八%、町村立はまだ五十%以下です。ただ数年前からの職員数・資料費の減少という状態が続いており、日図協などでも、単に本を借りるだけというイメージから転換して、もっと生活にも仕事にも必要な施設だという



アピールが理解されればまた盛り返すことが可能ではないかと考えています。

最近の国の動きを紹介します。

一つめは、指定管理者制度の導入、地方独立行政法人制度の中で、図書館の設置、管理形態の多様化・流動化の話題です。文科省は、館長業務を含めて管理全般を委託できる、あるいは一部業務の、例えばカウンター業務だけを指定管理者に委託することも可能といっています。

二つめは、国庫補助金制度の廃止と図書館の未設置町村の解消、その打開策としてのネットワーク化とかPFIとかの話題です。

その他に、特に大きな影響のある問題をピックアップしてみます。

まず、三位一体改革の中で図書館関係補助金がすべて廃止されました。その中で、学習拠点施設情報化等推進事業については地方交付税で措置されています。

次に、パートタイム地方公務員という制度の動きと、図書館業務への導入です。

また、PFIの活用や、地方公共団体への寄付金控除制度の活用という民間との連携があります。さらに、地方交付税の需要額の改

定、特に、県立図書館での需要額の減額が及ぼす影響です。

他に、箇条的にいえば、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の中で図書館サービスの自己評価、自己点検、利用者に応じたサービスの展開での情報通信機器の整備重視、子供の読書活動推進、高齢者、障害者サービスです。(参考として、『二〇〇五年の図書館像、地域電子図書館の実現に向けて』)

文科省は、平成十六年度予算として、二つの大きなポイントを挙げています。

一つは、「社会教育活性化二十一世紀プラン」というもので、一億四千六百七十七万円をつけています。

もう一つに、図書館の情報拠点化に関する調査・研究費(三千万円)があります。この中で、企画委員会を文科省に設置して、五年後、十年後の公共図書館がどうあるべきかという指針を策定するなど、新しい図書館像の構築に向けての調査研究を今年行くと聞いています。

中身に触れますと、基本的には図書館を広域ネットワークで結んでいく、つまり、コンピュータの利用と物流システムを整えてひとつの図書館が小さくても全国の図書館をネットワークで結び、県域を越えたものも異館種のネットワークも含めて、図書を検索や予約・貸出を可能なシステムを作っていく。

二つめが、高度な図書館サービスに対応できる司書の養成・研修、評価のあり方についての検討です。

三つめが、ビジネス支援、子供の読書等の新たな図書館運営というのがどうあるべきかという事を検討する。その他、総務省の地域公共ネットワークシステムという動きもあります。

あと、図書館をめぐる注目すべき動きを紹介します。

一つめは、ビジネス支援もそうですが、文科省以外の省庁からの図書館への働きかけです。

二番目に、パートタイム地方公務員の導入です。

三番目に、生涯学習の振興方策(中教審生涯学習分科会)についての報告書は、生涯学習の中で図書館を非常に高く評価しており、こういう報告書の活用が図書館に求められてくるのではないかと思います。

四番目に、子供の居場所作り推進連絡会議(文科省)の中でもやはり公立図書館がひとつポイントになっているようです。

大雑把に言いますと、こういうことが今、同時並行で進んでいるということだと思えます。

※スペースの関係で、講演の後半(著作権部分概要)と講演資料は、割愛していますので、必要な方は、事務局まで請求してください。

図書館と学校等との連携

～移動図書館車「はまなす文庫」学校等訪問開始～

宮津市立図書館の取り組み

宮津市立図書館 池田 幸恵

宮津市立図書館では、移動図書館車「はまなす文庫」学校等訪問を始めました。学校等というのは、保育所(園)、幼稚園、小学校を訪問するからで、実際には、学校等のところに、〇〇小学校のよう

に名前を入れます。移動図書館車の蔵書はほとんどを子ども向きの本に積み替えて、職員四名、おはなし会のボランティア四名(全八名)で訪問し、移動図書館車の見学や本の貸出とおはなし会を行います。昨年、ある小学校の読書月間の行事として、移動図書館車やおはなし会の派遣の依頼があり、その様子が宮津市の広報に載りました。それを見た学校からぜひ我が校にもという要望が寄せられました。

図書館では、貸出文庫や団体貸出、体験学習や見学、また研修会などへの先生方の参加を通して、学校等との連携を進めてきましたが、今度は、直接子ども達と接することで連携が更に深まることが期待できました。そうして、平成十六年度の新規事業として認められ、予算化され、訪問出来ることになりました。

訪問を「子ども読書活動の推進」の一助にしたいと考えていますので京都市内各図書館様のご指導、ご援助をよろしくお願いいたします。



「訪問して、良かった」ということになりました。まず、やってみると。そこからスタートを切ったばかりです。二学期以降の訪問に向けての計画や反省を先日(七月十二日)行いました。

お父さん図書館へ行こう!

園部町立園部中央図書館の取り組み

園部町立園部中央図書館 大西 敏之

それぞれの図書館で、『おはなし会』の開催や地域のボランティアさんの『絵本の読み語り』など、子どもの読書推進に向けた様々な取組の成果として、ちいさな子どもを連れてお母さんたちの姿が増えていませんか。しかし、お父さんと一緒に親子連れの来館者はどうでしょうか。家庭の中で子育ては、まだまだ母親にまかせっきりになっているように感じます。

そこで今回、六月二十日の『父の日』に、『お父さんと図書館へ行こう!』のキャッチフレーズのもと、子どもとお父さんとのより良い関わり方について提案しようと考え、この七月に父となる予定の三十一歳、子だくさんの父四十一歳、一人娘の父四十四歳、子どもがとくに成人を過ぎた父六十九歳の四人で、『お父さんたちのおはなし会』を開催しました。内容は、『手作りおもちゃ』の紹介、絵本の読み語りを二冊、そして『紙芝居』です。当日は、五十名を超える親子連れ(お父さんは八名)の参加があり、約一時間、とてもよい雰囲気でおはなし会を進める



ことができました。そして、お父さんを含めた何人かの参加者から、また来年も開催してほしいという声をいただき、たいへん心強く感じました。

おはなし会の冒頭で、子どもたちに、「父の日を楽しみにしていた人はいませんか?」と質問をしてみました。予想どおりだれも手を挙げる子はいません。せめて父の日くらいは、お父さんが子どもと一日中遊んだり、絵本を読んでもくれる、そんな日になれば、子どもたちもこの日を楽しみにしてくれるのではないかと考えます。多くの自治体において、様々な形で子どもと本をつなぐ取り組みが行われています。しかし残念なことにその主役のほとんどは、お母さんたちではないでしょうか? もっともつと世の父親がこの分野で、お母さんたちと一緒に頑張って、頑張ってもらいたいと考えます。来年の六月の第三日曜日園部中央図書館では、今年以上にパワーアップした『お父さんたちのおはなし会』を開催いたします。

平成十六・十七年度

京図連協役員体制

会長

山本 徳善(宇治市中央図書館)

副会長

中澤 猛(亀岡市立図書館)

理事

仁科 晴夫(八幡市立八幡市民図書館)

南北 敦子(京都府立図書館)

小川 明夫(京都市伏見中央図書館)

長谷川幸治(京都市洛西図書館)

酒井 英慈(向日市立図書館)

山崎 隆男(山城町立図書館)

川邊 清史(美山町立図書館)

塩見 行雄(福知山市立図書館)

池田 幸恵(宮津市立図書館)

糸井 雅代(京丹後市立峰山図書館)

監事

早野 潔(京都市南図書館)

西村 千秋(長岡京市立図書館)

顧問

津守 俊一(京都府立図書館)

辻 逸司(京都府立総合資料館)

梶村 健二(京都市中央図書館)

平成十六・十七年度

専門委員会委員一覧

◎ 研修研究委員会

委員長

仁科 晴夫(八幡市立八幡市民図書館)

委員

寺田 知利(長岡京市立図書館)

児島みえ子(宇治市中央図書館)

奥山 一紀(宇治田原町立図書館)

小谷 光幸(井手町図書館)

森井 里美(加茂町立図書館)

河西 聖子(精華町立図書館)

勝野つたえ(亀岡市立図書館)

生駒 彩子(綾部市図書館)

西妹 朋子(舞鶴市立東図書館)

岡本 知子(宮津市立図書館)

松岡 豊美(京丹後市立あみの図書館)

藤原 絹江(京都市伏見中央図書館)

川上 元(京都府立図書館)

石原 明子(京都ライトハウス
情報ステーション)

金田 清栄(京都府立総合資料館)

◎ 相互協力委員会

委員長

南北 敦子(京都府立図書館)

芦田 穂子(向日市立図書館)

橋 一良(城陽市立図書館)

尾上日出丸(八幡市立八幡市民図書館)

山下真佐美(木津町中央図書館)

石川 佳奈(山城町立図書館)

大西 敏之(園部町立園部中央図書館)

河田美奈子(舞鶴市立西図書館)

瀬戸真由美(岩滝町立図書館)

藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)

上田まゆみ(京都市中央図書館)

河原 茂記(京都府立図書館)

藤原 直幸(京都府立総合資料館)

◎ 広報委員会

委員長

小川 明夫(京都市伏見中央図書館)

委員

吉本 康夫(久御山町立図書館)

西尾 洋子(京田辺市立中央図書館)

永本洋一郎(福知山市立図書館)

山内 卓(京都市久我のもり図書館)

人見 祐之(京都府立図書館)

藤原 敏克(京都府立総合資料館)

◎ 第十三回京都図書館大会

日時 平成十六年九月九日(木)

十時二十分～十六時(受付十時)

会場 同志社大学今出川校舎明德館

基調講演「図書館サービスと著作権」

講師 国立国会図書館 南 亮一氏

シンポジウム・交流協議

平成十六年度研修計画

現在分かっている範囲の研修計画
をお知らせします。

◎ 第九十回全国図書館大会

期日…十月二十七日(水)

十月二十九日(金)

開催地…香川県高松市

テーマ…「瀬戸内の風にのせて、未
来へ発信」情報の泉・図
書館を考える」

◎ 全国公共図書館研究会

● サービス部門研究会

期日…十月七日(木)～八日(金)

開催地…岩手県盛岡市

テーマ…「図書館サービスの未来を
語ろう」チャレンジ!できる

ことから始めてみよう」

● 児童・青少年部門研究会

期日…十一月二十五日(木)

開催地…福井県福井市

テーマ…「一人一人の子どもに読書
のよろこびを」

● 総合・経営部門

期日…平成十七年一月二十七日(木)

開催地…鹿児島県鹿児島市

テーマ…未定

◎ 図書館地区別研修近畿地区

期日…平成十七年二月一日(火)

開催地…兵庫県神戸市

テーマ…未定

◎ 近公図研究集会

期日…未定

開催地…大阪府大阪市

テーマ…未定

(児童奉仕部門は隔年開催のため今
年度はありません。)

新任図書館(施設)長紹介

京都市左京図書館	浅田 勝
同 岩倉図書館	五十嵐幸夫
同 山科図書館	古川昇太郎
同 吉祥院図書館	増山 忠雄
同 右京図書館	古野 勝治
同 向島図書館	西林 豊二
同 こどもみらい館子育て図書館	辻 智之
向日市立図書館	酒井 英慈
大山崎町立中央公民館図書室	池野 公夫
城陽市立図書館	原田 豊範
京田辺市立中央図書館	奥西 安己
井手町図書館	牧野 久夫
宇治田原町立図書館	山下 康之
木津町立中央図書館	岡沢 政和
精華町立図書館	小山 雄一
和知町ふれあいセンター図書室	
美山町立図書館	十倉 一昭
綾部市図書館	中野 愛子
福知山市立図書館	入沢久美子
京丹後市立図書館	塩見 行雄
京丹後市峰山図書館	糸井 雅代
京丹後市あみの図書館	濱岡 輝行
京都府立総合資料館	辻 逸司
京都府立図書館	津守 俊一

(敬称略)

★ ★ 専門委員会 ニュース ★ ★

◎ 研修研究委員会

平成十六年七月九日(金)に京都府立図書館において、本年度第一回研修研究委員会を開催し、事業計画について協議した。

北部会場

平成十六年十一月二十五日(木) 場所 みやづ「歴史の館」

講師(財)大阪国際児童文学館

主任専門員 土居安子氏

長岡京市教育委員

(財)大阪国際児童文学館

非常勤専門委員 北畑博子氏

テーマ「ブックトーク講習会」他

中部会場

平成十六年十二月月上旬～中旬を開催予定としてテーマ等を引き続き検討。

南部会場

平成十七年一月中旬～下旬 場所 長岡京市

テーマ等は引き続き検討。

詳細については、早々に立案し、理事会承認手続きを経て「会報」等でお知らせします。

◎ 相互協力委員会

平成十六年度第一回相互協力委員会を七月二日(金)午後二時から京都府立図書館で新年度メンバー全員出席のもとで開催された。

まず、平成十七年に予定されている京都府立図書館コンピュータシステム更新にともなうK-I-L-i-b-n-e-t

システムの更新について、よりスリム化した効率のよいシステムとするための基本的な考え(案)について

企画調整係から説明がなされた。

また、今後拡大相互協力委員会やアンケート等で各館・施設からの意見、要望を集約していく予定である

との報告があった。

次に今年度の相互貸借事業についての協議では、最近の出版社文庫・新書等の新たな刊行という状況を受けて、「資料の分担収集・分担保存」

についての提案があった。

この件については雑誌やAV資料についても分担収集・保存の意見もあり、各館持ち帰って協議すること

となった。

また、「相互貸借貸出制限資料一覧」平成十五年二月修正版の改訂版

を作成、配布することとなった。

今年度の会議としては、拡大相互

◎ 広報委員会

平成十六年度第一回広報委員会を六月十七日(木)に府立図書館で開催し、今年度の発行計画及び会報六十四号の編集方針等を協議しました。

今年度の発行は年三回とし、

第六十四号 八月十五日

第六十五号 十一月十五日(予定)

第六十六号 三月十五日(予定)と決定しました。

◆ 編集子 ◆

皆様と広報紙を通じて情報を交換する重要性をひしひしと感じながらの初会合。

発行計画・編集等の協議に全員熱が入りました。今後の内容

につきましては、近年の図書館をめぐるいろいろな動きのなか、

お知らせすべき基本的項目と、

できるだけ多く各図書館での取

組活動や新しい動き等を盛り込

んで興味ある広報紙としてお届け

したいと考えておりますので、

今後ともよろしく願っています。

ます。

協力委員会と実務担当者会議を各一回開催する予定。